



らましである。
この車地蔵が移されて、海
前寺山門前を横切る道沿いに
祭られている。瓦ぶきの覆屋
と右側に、「昭和の拳聖」
といわれたピストン堀口の墓
がある。墓碑上面に「拳闘こ
そ我が命」、前側面に「ピス

ある「
3代目が
(文化

大規模災害の発生を想定した人的ネットワークづくりが茅ヶ崎市内で動きだす。ボランティアの活動拠点となるボランティアセンター（VC）の効果的な運営に向け、行政と民間が連携して取り組むことが主眼。市や市社会福祉協議会のほか、東日本大震災の被災地支援を行っている市民活動団体などを募り、7月29日に「ちがさき災害ボランティア交流会」を開く。

（山本 昭子）

大規模災害へ官民連携

■平時から接点

市と市社協で構成する「市災害救援ボランティア支援センター」主催のボランティアバスパックに参加し、宮城県南三陸町や岩手県釜石市でがれきの片付けなどを行った久我真さん（49）＝茅ヶ崎市中海岸＝は「震災が起きてから『はじめまして』ではボランティアの作業がうまく回るまでに時間がかかる」と指摘する。

昨秋、参加者とともに被災地支援団体「Team Aid for Japan」＝しよなん茅ヶ崎災害ボランティア（TAJ）＝を設立。地元が被災した場合を想定し、行政やボランティア経験者、団体などが



人的ネットワーク築こう

茅ヶ崎 来月29日、初の交流会

平時からつながりを持ち、ボランティアの受け入れ態勢などをシミュレーションする必要性を訴えてきた。

■手順見直し中

同市の場合、VCは市が総合体育館に設置し、市社協が運営する。両者で協定が結ばれ、運営マニュアルもあるが、現在は見直し中だ。

市は「そもそもVCを行政がコントロールするべきかどうか、根本的に見直している。草の根の市民活動団体が出てきている中、行政は場所や情報の提供に努める『支援』という形が適しているのでは、ということも含めて検討中」と説明する。

問題意識を共有した市、市社協、TAJの3者が今年に入ってから月1回の協議を重ね、まずは人的ネットワークのきっかけとなる交流会の開催が決まった。

■知恵出し合おう

7月の交流会は、被災地支援の経験がある個人や市

民グループ、団体などが主な対象。久我さんは「どういふ形に発展するかは、知恵を出し合いたい。まずは横の連携をつくるのが目的」と話す。市社協は「普段関わっているのは、福祉ボランティアの人たちが多い。災害時に向け、人とのつながりをより積極的に持つきっかけになれば」と話している。交流会は午後1時から。参加費無料で、定員は200人。参加希望者は市社協☎0467(85)9650。

鎌倉の文化

寄付の申し出があった世界遺産ガイダンス施設の候補地
＝鎌倉市扇ガ谷1丁目

